

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Soy consumption and incidence of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

大豆摂取と妊娠糖尿病の発症との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: European journal of nutrition

年: 2021 DOI: 10.1007/s00394-020-02294-1

筆頭著者名: 董加毅

所属UC名: 大阪UC

目的:

大豆摂取と妊娠糖尿病の発症との関連について縦断的に分析すること

方法:

エコチル調査全国の参加者(母親)を対象に、妊娠初期のアンケートから大豆製品(豆腐、みそ汁、納豆など)の摂取を、イソフラボンの摂取量によって5つのグループに分け、摂取量が最も少ないグループと比べ、その他のグループでの妊娠糖尿病の発症リスクを調べた。年齢、喫煙、飲酒、学歴、職業、妊娠前の体格指数、うつ病、巨大児出産の既往歴、出産経歴、身体活動、食事を交絡因子として調整した。

結果:

イソフラボン摂取量が最も少ないグループと比べ、摂取量が最も高いグループでは、妊娠糖尿病リスクが有意に低下した。大豆製品では、みそ汁と納豆の摂取は、妊娠糖尿病の発症リスクを低下させたが、豆腐摂取と妊娠糖尿病の間には有意な関連は認められなかった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究は観察研究のため、未観測交絡変数の影響は排除できない。また、豆腐、みそ汁、納豆の摂取は自己申告であるため、測定誤差の影響も考慮しなければならない。

結論:

みそ汁と納豆の摂取は、妊娠糖尿病の発症リスクを低下させる可能性が示された。